

「忠誠を誓う」

.....

「忠誠を誓う」などということは、最近あまり言わなくなったようですが、なぜ多くの夫婦が、こんな当たり前のことを忘れてしまったのでしょうか。

最近ある結婚式で、新郎新婦が「私に愛情がある限り、あなたと一緒にいることを誓います」という誓いのことばを交わしたそうです。

この夫婦が長続きたかどうかは、疑問です。男女間の愛情は、他のさまざまな感情と同じで、浮き沈みがあります。だからこそ夫婦関係を長持ちさせるためには互いへの忠誠心が最も必要とされるのです。そしてこの忠誠心とは、感情ではなく意志の問題です。

ところで、親が子どもに「愛情を感じている間だけは、親でいてあげるからね」などと言うことを聞いたことがありますか。

もし、そんなことを言われたら、子どもは安心して生きていくことができません。同じようにいい加減な気持ちでは、安定感のある家庭を築き、守っていくことはできません。

そこで伝統的なキリスト教式の結婚式では、

「健やかなる時も、病める時も、富める

時も貧しい時も、堅く節操を守ることを

誓います」と新郎新婦は誓うのです。

列車に例えれば、感情は二号車以降で、

運転席のある先頭車両にあたるのは、

日常のアップダウンにもめげず、終着駅

まで行きつこうという「堅い意志」

なのです。



by Morita

彼は自分の妻についてこう言っています。

「妻は私の鏡となつて、私に自信を与えてくれました。私が妻を見ると、彼女は優しくほほえみ返してくれます。それで自分は大丈夫なのだと思います。」

これこそ、結婚のあるべき姿でしょう。夫婦というのは、互いに心から称えあうべき間柄なのです。その結果、夫婦は互いの自己評価を高めあい、多くの欠点をも見過ごせるようになるのです。

上手なコミュニケーション

健全な夫婦関係の土台はお互いのコミュニケーションだとわれま
す。ただし、これらは、何でもあからさまに言えば良いというものでは
ありません。

なんでも言い合える夫婦が、うまく行く可能性が大きいことは事実
です。けれども、また「過ぎたるは及ばざるがごとし」とも言います。

例えば、夫が妻に

「君の顔のシミが目障りだ」とか、

「君の料理は本当にひどいな」と言うのは、確かに正直です。

また、いつも夫の欠点や失敗を責め、いら立ちを隠さない妻も、裏
表がない、とは言えるでしょう。

しかし、相手の気持ちも考えない正直さというものは、わがままで

あり、残酷です。特に、自分で変えようとしても変えることができない点をあげつらうのは悪趣味です。

頭に浮かんだことを何でも口にしようと決めている夫婦は、せっかく育てた愛の花を自分たちで摘み取ることにもなりかねません。二人の間に、神秘的な要素がなくなつて、お互いが最初に感じた魅力を、自分の手で台無しにしてしまいます。

私は、別に夫婦が欺きあうことを勧めているわけではありません。そうではなく、夫婦は互いに未知の部分を残しておく方が良いことと、正直の名の元に直接相手に怒りをぶちまけるのではなく、少し頭を冷やす必要がある、ということを行っています。

二艘のボート

.....

次のような場面を想像してください。湖に、二艘のボートが浮かんでいます。一艘には男性が、もう一艘には女性が乗っています。お互いを大切に思う二人は、横に並んで一緒に湖を渡ろうと試みました。

けれどもボートはゆっくりと、別の方向へと流されていきます。波と風が、二人を反対の方向へと押しやり、二人が気付いた時には一艘は湖の北端に、もう一艘は南端に漂着していました。遠く離れた二人は、もう大声で叫ばないと、会話もできません。さらに、湖の真ん中には三艘目のボートがあり、困惑した表情の、幼い子どもたちが乗っています。

この例え話は、現在多くの夫婦が抱える問題をうまく描いているように思います。新しいスタートを始めた二人は、あらゆる努力をして、

人生を一緒に歩み続けようと思います。しかし、毎日の生活に追われて、いつしか二人は各々自分の方向を見つけ、勝手に動き出し、少しずつお互いから離れ始めます。夫婦が共にボートを漕ぎ、力を合わせて働き、お互いの問題を話し合ったり、譲り合ったりしない限り、向こう岸に一緒にたどり着くことはできないでしょう。

しかし、二人がお互いを思い、相手のペースを考えて漕ぎ続ければ、ボートはいつまでも仲良く進むことができます。さもないと、現代社会の荒波は、二人をあっという間に遠く引き離してしまうでしょう。



正しいけんかの仕方

.....

どんな夫婦でも、摩擦は避けられないものです。ですから正しいけんかの仕方を学ぶことが、とても大事なのです。

結婚生活には、正しいけんかもあれば間違っただけんかもあります。つまり互いの不一致をどう解決するかが問題なのです。不安定な家庭では、相手の最も弱いところに向けられたのしり合いが絶えません。

「あなたって何一つまともにもできないわね」

「そもそもお前と一緒にになったのが間違いだった」

「最近ますます、お前、母親に似てきたな」

こういう攻撃的なことばは、あなたの伴侶の心を深く傷つけます。

これとは違って、正しいけんかは不一致をもたらした問題点に焦点を当てます。

例えば、

「夕食がいらぬ時には連絡してくれないと困るじゃない」

あるいは、

「会社の連中の前であんな風に言われちゃ、まるで僕が馬鹿みたいに見えるじゃないか」という具合です。

違いが分かりますか。ことばは同じようにきつく聞こえますが、前者は相手の人格を傷つけ、後者は摩擦を引き起こした原因を追及しているのです。

正しいけんかの仕方を夫婦が一緒に学びとるなら、互いを傷つけたりとおとしめたりせずに不一致を解決していくことができるのです。

妻への最良のアドバイス

.....

何もアドバイスをしがないのが、最善のアドバイスとなるとときがあります。

「生理前の症状に苦しんでいる妻を助ける方法は何かないですか」という質問を受けることがあります。私が駆け出しのカウンセラーであつた頃に学んだことをお話ししましょう。

ある女性が、例外なく四週間おきに電話か訪問をしてきたのです。彼女は来るたびに気持ちが悪く不安定で、うつ傾向なのに、自分の問題が生理的なものであるとは考えていませんでした。あまり心配するほどのものではないから、「二三日の辛抱ですよ」と慰めたのですが、彼女はますます混乱しました。

最後に気がついたのは、彼女が私のところへ来るのは、回答を得る

ためではなく、誰かに自分のつらさを分かちて欲しかったのだということ。それから私は、ひたすら彼女を受け入れ、その症状に耳を傾けることだけに徹しました。彼女は、ひとしきり泣きながら話をした後、鼻をかんで、「気分がすっきりしたわ、あなたに話せなかったら、どうなっていたか分からないわ」と言いました。

私がしたことと言えば、話を聞いただけです。でも、それが良かったのです。

夫が妻にできる最大の貢献は、親身になって彼女の話に耳を貸すだけ、ということがあります。それが、どんなアドバイスにもまさる贈り物になるのです。

.....
あの素晴らしい愛をもう一度
.....



「あの素晴らしい愛をもう一度」という歌がは
やったことがありますね。もしあなたが、初めて
ご主人に出あった頃の胸のときめきを失っていると
しても、どんな夫婦にも倦怠期はあるのですから心
配しないでください。

夫婦の愛情も、ひとつの感情なので浮き沈みがあります。もし熱い
気持ちを呼び戻したいなら、いい方法があります。

それは二人の最初の出会いに戻ることです。あの頃の感情の高ぶり、
待ち合わせの時刻が待ち切れなかったこと。離れている時間が永遠に
さえ思えたこと。そういう日々のことを話し合うと、その時の気持ち
がよみがえります。話すよりもいいのは、もう一度やってみることで

す。

私たちは、昔二人でよく通った場所を訪れてみました。二人が二度目のデートで食事をしたレストランで、夕食を楽しみました。次の週には、昔、ロマンチックな夏の夕暮れ時に二人でよく散歩したシヨツピングモールに行きました。

「あの素晴らしい愛をもう一度」という気になったら、出会った頃の思い出を話し合ってください。シャイな日本の男性にはちょっと勇気がいるかもしれませんが、懐かしい場所を訪れてください。その頃歌った歌を口ずさんでください。

きっとあの頃の熱い気持ちがよみがえってくることでしょう。

晴れの日も、雨の日も

.....

こういう冗談があります。結婚式で、「あなたは、その健やかなる時も、病める時も、豊かなる時も、貧しき時も、この女性を愛し、これを敬い、これを慰め、これを助け、その命の限り、堅く節操を守ることを約束いたしますか」と牧師が尋ねると、新郎は「はい、いいえ、はい、いいえ、いいえ……」と答えたと言うのです。

誰でも最初は、健やかな時と豊かな時しかないと思いたいのですが、そういうわけにはいきません。人生は、晴れの日ばかりではありません。ある雑誌に、笑うに笑えない漫画が載っていました。結婚式で牧師が二人に聞きます。

「新郎新婦は、この結婚が破局に終わり、一部始終が本になって出版された時の印税、また、それが映画になった時に得る収入を全て平

等に分け合うことを誓いますか……」

コミカルに描いてありましたが、この漫画の背後には、悲しい現実があります。現代の多くの若者は、結婚する時から、別れることが頭にあります。

「自分の益になる限りは、一緒にいよう」と考えます。けれども、それでは離婚という苦痛を味わうのは時間の問題です。なぜでしょう。結婚生活に摩擦はつきもので、困難の日に、固い決意のない男女関係ほど、もろい物はないからです。

しかし、このように否定的な見方をしてはいけません。なぜなら人生の様々なストレスに打ち勝つ、夫婦の信頼関係を築く方法があるからです。その秘訣とは「何があってもこの人を愛していこう」という固い意志を持つことなのです。

離婚が子どもに与える影響

離婚が子どもたちに及ぼす影響を、あなどることはできません。

両親との暖かく信頼に満ちた関係が、子どもの情緒的発達に必要であることは、よく知られた事実です。親子の関係を阻害するものは何でも、子どもの精神衛生に後々まで響きます。

離婚の悲しい現実を目を開かせてくれる、米国のある調査結果を紹介しましょう。離婚家庭の子どもたちの九〇％は、両親が別居した時点で、強い悲しみや、いわれのない恐れなど、大きなショックを経験しています。

またその半数の子は、「自分が見捨てられた」と感じています。父親の半数は、実に離婚後三年たつても、一度も子どもに会いに来ていません。その結果、三分の一の子どもは、「今いる親にも捨てられる

のではないかと恐れています。また、約七割の子どもは、「親に会いたいと言う気持ちを押さえられない」と答えています。

三七%の子は、「親の離婚から一年半後よりも、五年後の方がよりつらい」と証言したことは特に重要です。離婚に関しては、時は傷口をいやせないのです。

テレビや映画などで、夫婦の不倫や離婚が、大人のゲームのように扱われているのを見ると、私は怒りをおさえられません。とんでもないことです。

夫の理解で、勇気一〇〇倍

.....

小さなお子さんを育てている母親には、夫の理解が何よりも嬉しいものです。

小学校に上がる前の子どもを何人も抱えた母親ほど、忙しい人はいないと思います。朝から晩まで腰をおろす暇もないばかりか、精神的なストレスも人並みではありません。

二歳から五歳頃の子どもは、絶え間のないおしゃべりと質問の集中攻撃で、大人の神経を逆なでする恐ろしい能力を持っています。それに、危険な物とそうでない物の区別が、なかなかつきません。

朝は、元氣一杯でスタートした母親も、午後四時頃には、もうへとです。

そうした時に、夫にできることが一つあるとしたら、それは、妻に

理解を示すことです。誰か一人でも、「自分の気持ちを分かってくれ
る人がいる」と思えば、人はかなりのストレスにも耐えられるよう
になります。

この原則は、多くの女性に当てはまるでしょう。夫が少し話を聞い
てあげるだけで、妻の日常のフラストレーションは、ずっと軽くなり
ます。

たとえ夫が、実際には何も手助けできなかつたとしても、妻を思い
やり、妻の苦しみを分かちあげただけで、彼女は、「明日もがんば
ろう」という気持ちになれるものなのです。

